

## 大越中女子がバスケットボールで優勝



大越中学校女子バスケットボール部が新人戦県大会で見事優勝しました。板橋校長と小針コーチ、選手7人が11月27日に市役所を訪れ、富塚市長に優勝の報告をしました。

キャプテンの佐藤由佳さんが「選手みんなが練習の成果を発揮して、優勝を勝ち取ることができました。東北大会では応援してくれる皆さん、学校や田村市の期待を背負って精一杯頑張ります」と力強く決意を述べました。キャプテンの佐藤さんと副キャプテンの白石貴沙さんの2人は、県大会優秀選手にも選ばれました。東北大会は来年1月11日から13日まで秋田県横手市で開かれ、福島県からは上位2チームの大越中と郡山三中が出場します。

## ホールに響く感動の歌声

市内16小学校の4年生345人が一堂に会した「第5回田村市小学校童謡・唱歌音楽祭」が11月20日、市文化センターで開かれました。「田村の四季を歌おう」をテーマに、めだかの学校や牧場の朝、里の秋、たき火など四季折々の童謡や唱歌16曲が披露され、ホールに美しいハーモニーが響きました。合唱の合間には、市民から寄せられた童謡と唱歌にまつわるエピソードが、田村市の四季の風景や子どもたちの集合写真の映像と併せて紹介されました。また、吉田いくよさん（ヴォイス・プロ代表）の朗読による「モチモチの木（斎藤隆介）」など4編の読み聞かせも行われました。最後は保護者や高齢者学級参加者などが子どもたちと一緒に「ふるさと」を大合唱し、心を一つに感動を味わっていました。



## 夢大使が「田村市の観光」を応援



田村市夢大使まちづくり懇談会が11月26日、東京の中野サンプラザで開かれました。夢大使は、首都圏在住の市出身者や本市にゆかりのある方を観光PR応援者として委嘱し、12人で構成されています。

今回は10人の大使が参加し、富塚市長をはじめ市職員と意見を交わしました。今回のテーマは「観光施設への誘客を図るイベント事業の展開について」で、始めに市の観光施設やイベントの状況、復興の現状が紹介され、その後に自由な意見が出されました。

夢大使からは「田村市と言ってもどこに位置するのか知名度が低いので、福島県の田村市ということを強くPRしてはどうか」「インターネットの時代であることからメッセージ性が高いホームページにしているかどうか」などが提案されました。市からは富塚市長、志村副市長、梅澤産業部長、吉田商工観光課長が参加しました。

出席した大使は次のとおりです（敬称略、順不同）。遠藤隼人（ふるさと滝根会会長）、橋本逸男（日本ラオス協会会長）、井上あずみ（歌手）、吉野ヨシ子（彫刻家）、志田修（東京ふねひき会会長）、根本利英（ふるさとおおごえ会顧問）、白岩常志（ふるさと常業会会長）、渡邊晃（ふるさと都路会会長）、小川もこ（DJ、パーソナリティ）、南礼子（歌手）

※都合により欠席の大使は、紅晴美（歌手）、柳家小ゑん（落語家）です。

## 末永くお元気で 佐藤千代さんに百歳賀寿



11月26日に満百歳を迎えられた佐藤千代さん（船引町長外路）に県から県知事賀寿と記念品、市から賀寿と祝金が贈られました。また、市社会福祉協議会、市老人クラブ連合会、船引町老人クラブ連合会、長外路長寿会、美山地区、長外路行政区から、それぞれ賀寿と祝金が贈られ、千代さんにはこやかに賀寿などを受けられました。長寿の秘訣は「おいしい水を飲み、体を動かすこと」とのことです。

## 石井誠さんに「旭日単光章」

石井誠さんの高齢者叙勲の伝達式が、11月29日に大越町下大越の自宅で行われました。県中地方振興局の熊本局長から「旭日単光章」の勲章と勲記の伝達が行われ、富塚市長が立ち会いました。石井さんは、昭和48年から58年までと62年から平成3年まで大越町議会議員を務めました。その間、大越町議会副議長などを歴任し、議会の適正な運営と地方自治の振興に尽くされました。



## ホンダカーズ福島が進出

### 土地売買契約締結式



田村西部工業団地に用地を取得する自動車販売の株式会社ホンダカーズ福島（本社・郡山市）と県との土地売買契約締結式が11月11日、福島市で行われました。

式には齋藤庄司社長（写真中央）と県企業局の小松信之局長（写真左）が出席し、富塚市長が立ち合い、土地売買契約書に署名しました。

同社が取得した用地面積は約3万2千㎡で、敷地には納車前の車に周辺部品などを取り付けるサービスセンターを新設します。操業開始は来年4月の予定で、新たな雇用として7人を見込んでいます。

## トッキュウが安全祈願祭



田村西部工業団地に立地している株式会社トッキュウが福島営業所第二配送センターの新設を決め、12月3日に安全祈願祭を行いました。関係者がくわ入れを行い、富塚市長などが玉串をささげて工事の安全を祈りました。

トッキュウは平成20年に建築資材である複層ガラスの物流を担うため操業を開始。今回拡張の配送センターは、北海道から関東までと中部・関西間の重要な中継点として位置づけられており、物流倉庫の面積は拡張前の約2倍に広がります。完成は来年5月で、同年6月から稼働予定です。